

問合先

第八管区海上保安本部

警備救難部救難課

真鳥 剛・勝木 翼

電話 0773 - 76 - 4100 (内線 3250・3251)



平成31年2月26日

第八管区海上保安本部

## 大型旅客船事故対応訓練を舞鶴で実施

～ 旅客船の安全を確保するために更なる連携強化を目指します～

第八管区海上保安本部では、旅客船事業者と連携し、下記のとおり新日本海フェリー「あかしあ」と『旅客船事故対応訓練』を実施します。

この訓練は、舞鶴東港向け航行中の「あかしあ」が付近航行中の貨物船と衝突し、複数人の負傷者が発生したとの想定で、負傷者の搬送を実施するものです。

### 1 訓練実施日時・場所

平成31年3月4日(月)1300～1600

舞鶴東港前島埠頭岸壁(訓練実施場所図参照)

### 2 参加機関

参加機関

第八管区海上保安本部

舞鶴海上保安部

新日本海フェリー株式会社

参加勢力

フェリー「あかしあ」(事故想定船)

巡視艇ゆらかぜ(舞鶴海上保安部)

ヘリコプター1機(美保航空基地)

機動救難士4名(美保航空基地)



### 3 訓練想定

冠島南方付近海域において、舞鶴東港へ航行中の旅客船A号(総トン数17,000ト)左舷部に付近航行中の貨物船B号(総トン数50,000トン)船首部が衝突。旅客船A号の左舷側に破口等損傷発生し船内の一部が浸水(自力航行可、船外への油流出なし。)

水密作業に当たった乗組員 6 名が行方不明となっているほか、乗客数名に怪我等発生している。なお、貨物船 B 号は船体の損傷はあるものの、怪我人等の発生はない。

#### 4 訓練項目

(1) 第八管区海上保安本部と新日本海フェリー株式会社における情報伝達

(2) 要救助者の搬出及び救急搬送

(1) ~ (2): フェリーが洋上にいる想定です。

なお、訓練はすべてフェリー着岸状態で実施します。

取材対象は、(2)となります。

#### 5 その他

取材を希望される社は、平成 31 年 3 月 1 日 (金) 午後 5 時までに別添の取材申し込み票により申し込みをお願いいたします。





第八管区海上保安本部

旅客船事故対応訓練（3月4日）

## 取材申込票

| 御社名 |
|-----|
|     |

| 氏名 | 連絡先(携帯電話等) |
|----|------------|
|    |            |
|    |            |
|    |            |

| 質問事項等あればご記入下さい |
|----------------|
|                |
|                |
|                |
|                |

**【送信先】**

第八管区海上保安本部 警備救難部 救難課

(FAX 0773-76-4103)

3月1日(金)午後5時までにご連絡下さい





【問合せ先】

第八管区海上保安本部  
交通部航行安全課長 谷岡 敦  
電話 0773-76-4100 (内線 2620)

平成 31 年 2 月 26 日

第八管区海上保安本部

## 平成 30 年における AIS を活用した航行支援実績

### ～航行支援実績、過去 5 年で最多

<sup>\*1</sup>  
◇八管区内を航行した AIS 搭載船舶隻数

管内 AIS 受信船舶隻数：30,471 隻 (H30)

平成 30 年に八管区を航行した AIS 搭載船舶は、1 日あたり約 84 隻、1 ヶ月では約 2,540 隻であり、過去 5 年で唯一 30,000 隻を突破した <図 1 参照>

<sup>\*2</sup>  
◇管内航行船舶とのコンタクト隻数

管内航行船舶とのコンタクト：2,802 隻 (H30)

平成 30 年に八管区内の航行船舶 (外国船) にコンタクトした隻数は、1 日あたり約 8 隻、1 ヶ月では約 234 隻であり、過去 5 年で最多となった <図 2 参照>

◇AIS で行った情報提供実施回数 (気象を除く一般情報)

情報提供実施数：66,438 回 (H30)

(海難：40 回、航路標識<sup>\*3</sup>：8,419 回、工事・作業：7,409 回、

航路障害物<sup>\*4</sup>：12,297 回、その他<sup>\*5</sup>：38,273 回)

平成 30 年に AIS で行った情報提供実施回数は 1 日あたり約 182 回、1 ヶ月では約 5,537 回であり、過去 5 年で唯一 60,000 回を突破した <図 3 参照>

◇管内錨泊船の走錨監視隻数

走錨監視隻数：5,132 隻 (H30)

(日本船：3,693 隻、外国船：1,439 隻)

平成 30 年に AIS 積載船舶の走錨監視隻数は 1 日あたり約 14 隻、1 ヶ月では 427 隻であり、ここ数年は約 5,000 隻前後で推移している <図 4 参照>

\*1 「AIS (Automatic Identification System)」とは、船名のほか、船舶識別符号、種類、位置、針路、速力、航行状態等の情報を VHF 帯の電波で送受信し、船舶相互間及び船舶局と AIS 陸上局との間で自動的、リアルタイムに情報の交換を行うシステムです。

\*2 「航行船舶とのコンタクト」とは、当管区内領海に入域した外国船舶に対し、国際 VHF により、当該船舶の航行目的の確認及び安全情報の提供を行うことです。

\*3 「航路標識」とは、灯台、浮標などの障害、異常、消灯などをいいます。

\*4 「航路障害物」とは、船舶交通の障害となる漂流物 (木材、漁具、船舶等) のことをいいます。

\*5 「その他」とは、船舶の航行の安全上必要な事項のことをいいます。

【資料】

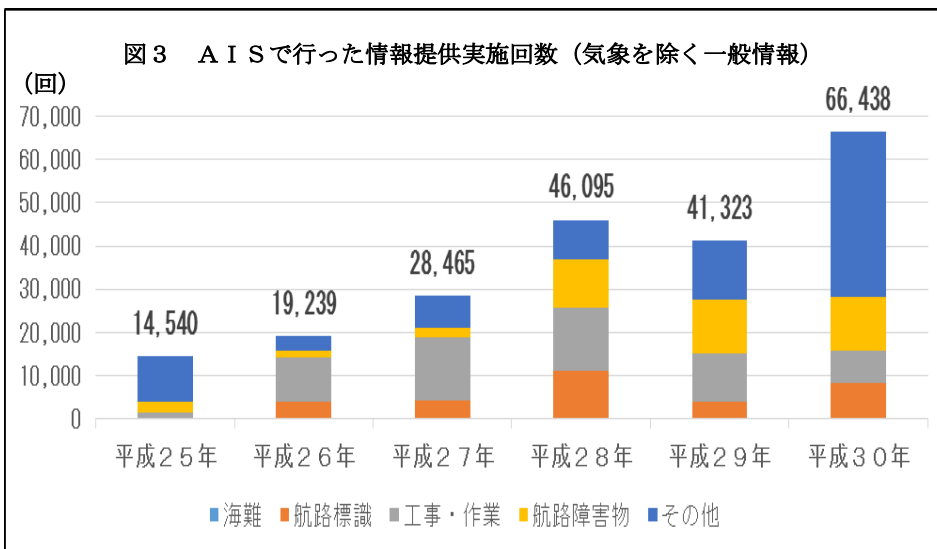
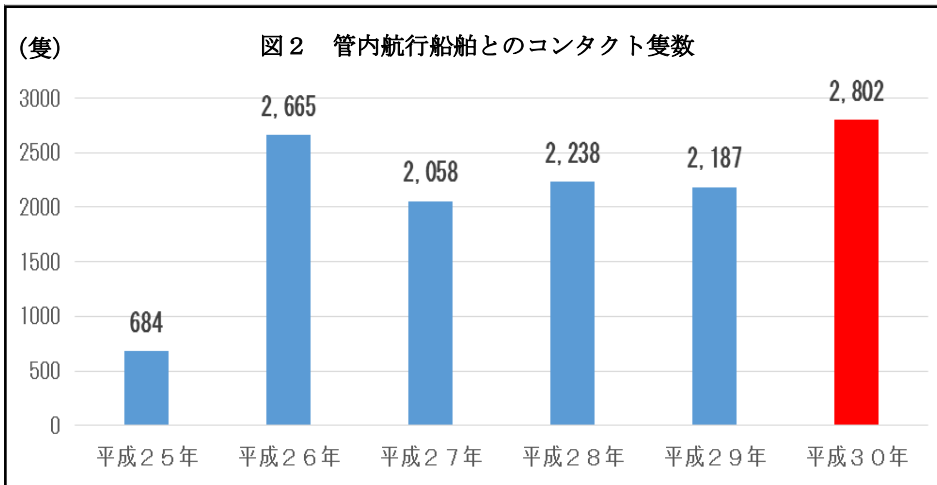
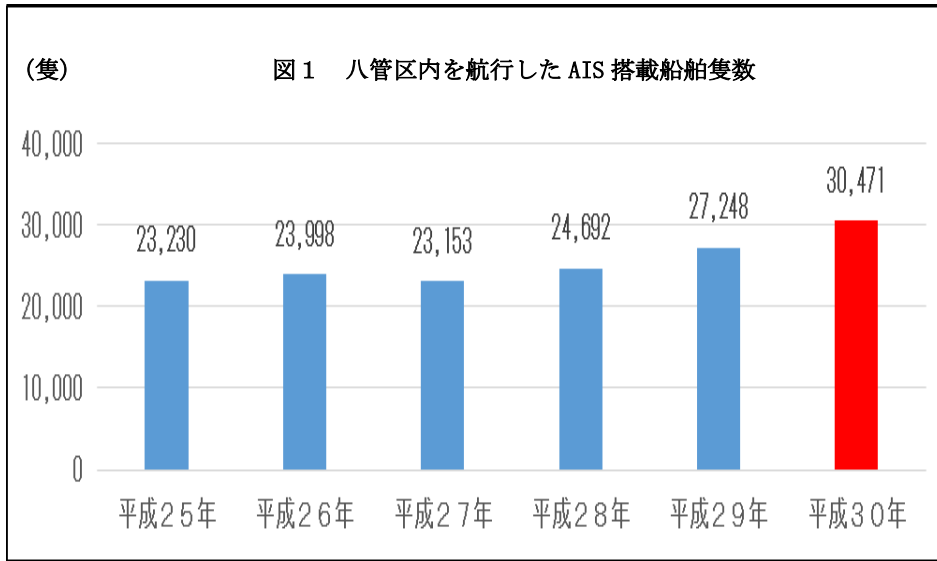
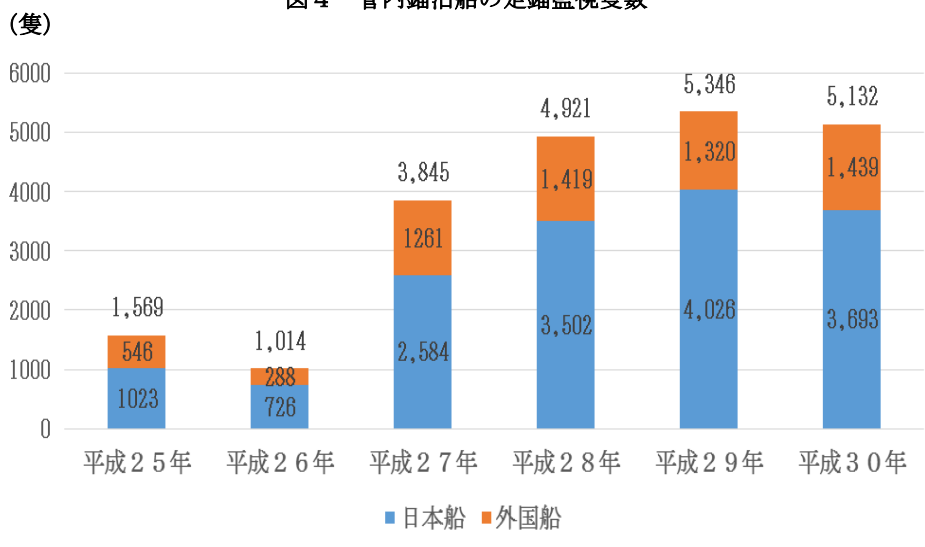
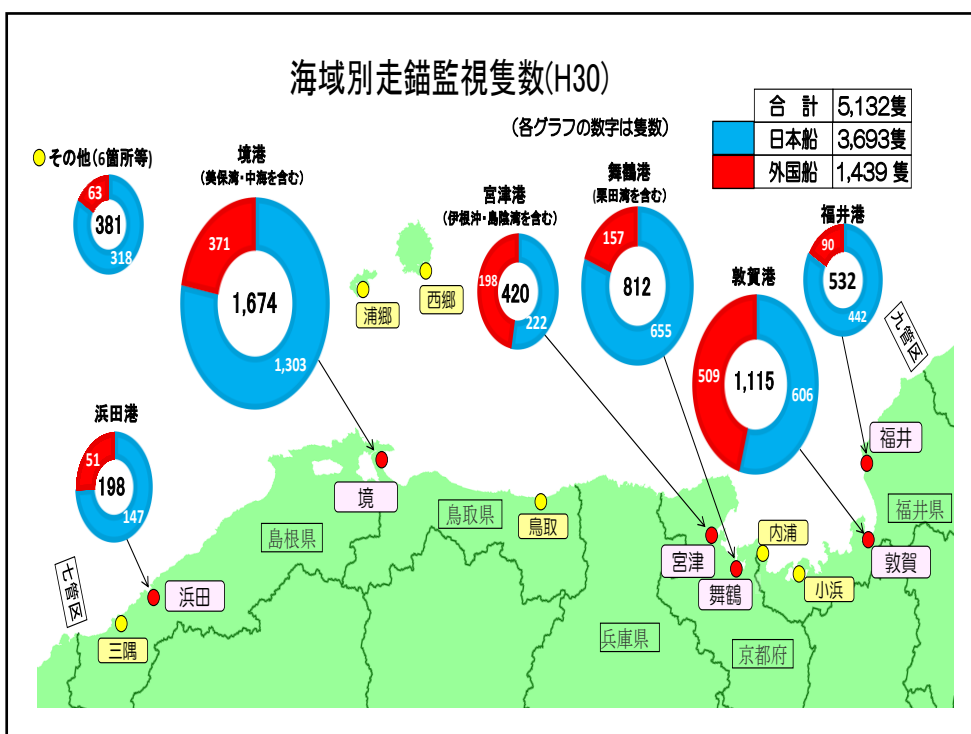


図4 管内錨泊船の走錨監視隻数



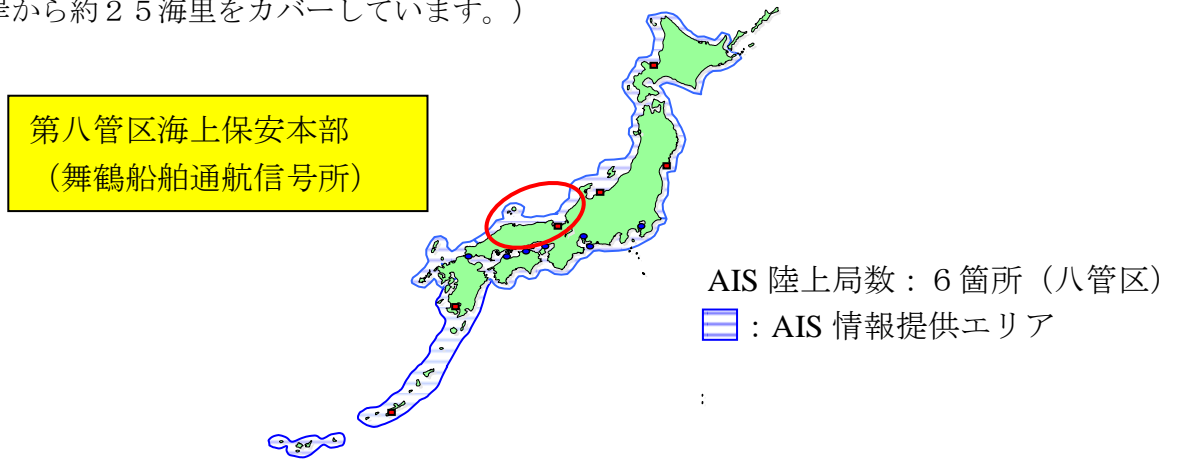
海域別走錨監視隻数(H30)



## 【参考】

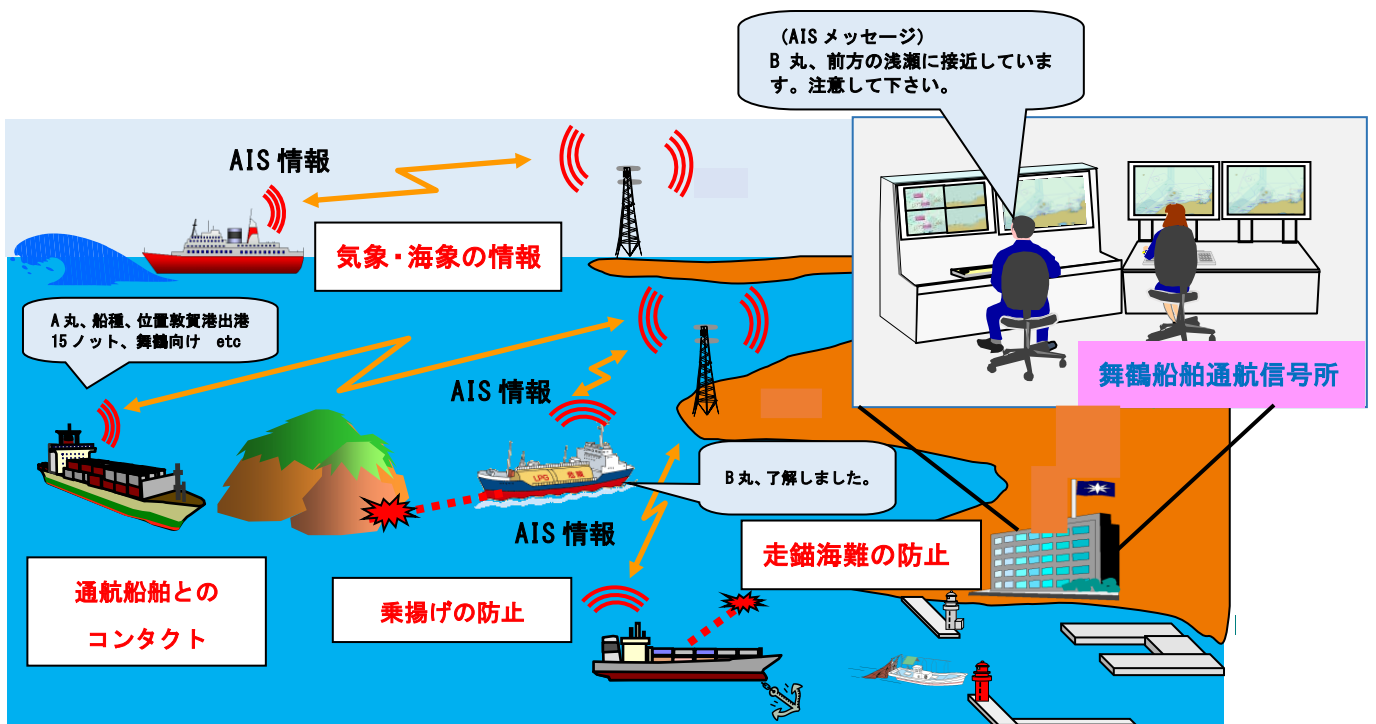
### 舞鶴船舶通航信号所による AIS 業務

舞鶴船舶通航信号所は、平成 20 年 7 月 1 日から運用を開始  
(陸岸から約 25 海里をカバーしています。)



### AIS を活用した航行安全業務のイメージ

舞鶴船舶通航信号所では、航行支援システムを運用し、当管区内の沿岸海域を航行する AIS 搭載船舶に対して、24 時間体制で安全上必要な注意喚起や各種航行安全情報を提供しています。



**【問合せ先】**

海上保安学校 事務部  
総務課長 菅原 浩嗣  
TEL 0773-62-3520



平成31年2月26日  
海上保安学校

**海上保安学校卒業式の実施について**

平成31年3月23日(土)、本科船舶運航システム課程第53期(航海コース、機関コース、主計コース)、航空課程第17期、情報システム課程第26期、海洋科学課程第27期 259名(うち女子34名)の卒業式を下記のとおり行いますのでお知らせします。

記

- 1 日 時 平成31年3月23日(土)  
午前10時から午前11時20分まで
- 2 式 場 海上保安学校 講堂
- 3 式 次 第 (1) 開式の辞  
(2) 国歌斉唱  
(3) 卒業証書授与  
(4) 優等賞授与  
(5) 学校長式辞  
(6) 海上保安庁長官訓示(出席者 調整中)  
(7) 来賓祝辞  
(8) 来賓紹介  
(9) 祝電披露  
(10) 卒業生答辞  
(11) 校歌斉唱  
(12) 閉式の辞

4 その他

式典に先立ち、海上保安庁幹部の出迎え、その後、学生隊による分列行進展示(雨天中止)を行います。取材を希望される方は、3月22日(金)迄に海上保安学校総務課庶務係(担当:新田)まで連絡をお願いします。当日は受付の際に卒業式の資料をお渡しします。取材時には報道機関各社の腕章の確実な着用をお願いします。

## 昨年度の状況

### 幹部出迎え

午前8時40分頃



全学生は、本館正面通路に学生隊役員を先頭とし1分隊から14分隊毎に整列し海上保安庁幹部を出迎えます。

### 分列行進

午前9時30分頃



分列行進は、校旗旗手、護衛を先頭に学生隊長、副学生隊長、主任生活指導学生が続き、分隊長、分隊旗旗手以下学生が14隊の分隊順に行進を行います。

午前10時00分頃



式典は、講堂において来賓、卒業生の家族等が参列し厳粛に執り行われます。卒業予定者は、船舶運航システム課程(航海コース、機関コース、主計コース)、航空課程、情報システム課程、海洋科学課程の259名(内女子34名)です。

午前10時10分頃



卒業証書の授与は、各課程(コース)毎に卒業生の氏名が読上げられ、卒業生は起立し、代表者が壇上に登壇し、学校長から卒業証書を受け取ります。

## 卒業生答辞

午前11時00分頃



式典では、学校長式辞、長官訓示、来賓祝辞の後に卒業生の代表が答辞を行います。

## 卒業生見送

午後1時30分頃



卒業生は教職員及び後輩期学生が作った本館玄関から校門まで続く花道を後輩との別れを惜しみながら進み、毎回感動的な場面が見受けられます。

午後2時00分頃



卒業生は、グラウンドに整列し、教職員、後輩期学生の見送りを受けます。卒業生は帽振れを行い、見送りに応えます。